

# 課外教養プログラムプロジェクト (KYOPRO)





## ピア・サポートの輪を広めよう!

# KYOPROスタッフ募集!!




KYOPROスタッフは、課外教養プログラムを通じて、学内に「ピア・サポート」(学生同士の支え合い)の循環をつくりだすことを目標としています。



### KYOPROとは!

法政大学にはさまざまなコミュニティがありますが、 もその1つです。  
 は私たち学生自身が法大生のために何が必要であるかを常に考え、大学の公式プログラムである「課外教養プログラム」を企画、運営する団体です。  
 では学生が主体的に考え、学生同士で意見を交換しあい、さらに教職員からアドバイスをを受けながら企画を練り上げていきます。  
 スタッフは講師への交渉、会場設営、参加学生へのサポートなど、責任を持って運営に取り組みます。

### KYOPROの目指すもの!

サポートを受けた学生(プログラムへの参加学生)が、今度はサポートする側( スタッフ)となり、学生同士の支援の循環をつくります。私たちはピア・サポート(学生同士の支え合い)により学生が抱える不安、身近な悩みの解消をはかりたいと考えています。また、もっとやりたい!という意欲的な学生の期待にも応えます。そのために「学びのきっかけづくり」「参加者間の交流」の場をつくっていくのです。



### KYOPROの魅力!

好きなようにできる。それは私たち学生にとって良いことであり、また ならではの厳しさでもあります。学生主体の活動は、自分たちが行動を起こさなければ何も始まりません。しかし、自分たちの行動が全て結果となって表れる。これが の厳しさであり、魅力であり、醍醐味です。学生の力が存分に反映され、達成感や充実感を心から感じることができます。

### 3キャンパスで活動!

日頃は市ヶ谷、多摩、小金井の3キャンパスにわかれて、それぞれのキャンパスで活動しています。そして、定期的に合同ミーティングを行い、情報の共有やふりかえりをする事で意思疎通をはかり、連帯感を深めています。

### お問い合わせ!

 に興味を持った方は、各キャンパスの学生生活課に足を運んでみてください。また、各キャンパスに スタッフがいますので、希望者には随時説明をしています。

### HP

<http://www.hosei.ac.jp/gakuseishien/news/kagai/index.html>



KYOPRO  
スタッフ  
疑似体験!

## プログラムができるまで~「坐禅のススメ」の裏側~



大学にはクラス、ゼミ、部活動、サークルなどさまざまなコミュニティがありますが、私は学生だからこそできることに取り組みたい、自身も含め学生にもっと大学を活用してもらいたいと思い、KYOPROに入りました。  
 「自分の企画意図を大切にしよう」。これは、私が初めて提案したプログラムを担当した時に、周りのKYOPROスタッフにかけられた言葉です。私は準備を進めていくうちに、当初の案から少しずつそれていくことに違和感を覚えながらもそのまま実施しようとしていました。しかし、他のスタッフや担当職員からアドバイスをもらい、考え直すことができました。あの時妥協しなくて本当に良かったと思いますし、またそれを気づかせてくれた仲間感謝しています。  
 KYOPROではさまざまな出会いがあり視野が広がります。好奇心が強いスタッフとともに活動し、教職員や学外の方々と関わることで、とても刺激を受け、知見が広がります。そして、私たち学生一人一人の力が大いに反映され、達成感や充実感を味わえることもKYOPROの魅力です。これからも仲間と協力し合い、法大生へのより良いサポートを継続していきよう、KYOPROの活動に一生懸命取り組んでいきたいと思えます。

多摩スタッフ 榎本奈央子(経済学部2年)

## KYOPROスタッフの声

KYOPROの活動は毎週行われるミーティングから始まります。そこでは、各自考えてきた企画案についての意見交換、進捗状況の確認、実施済みのプログラムのフィードバックなどを行います。案がまとまると、講師への依頼・交渉、広報活動、会場設営、プログラム当日の進行などと進み、これらはスタッフで協力して行います。  
 KYOPROの活動で特に気をつけていることは、講師とのやりとりです。依頼する上で大切なのは、私たちが思い描く内容をどれだけ講師と共有できるか、ということです。ここではコミュニケーション力が問われます。共有の良し悪しで、目的の達成度やプログラムの完成度、満足度が大きく異なってきます。そのため徹底した意見交換を行うようにしています。  
 以前「大学生のための「学び」講座」というプログラムを実施しました。これは大学への進学が珍しいことではなくなった現代において、周囲には学習意欲が薄れている学生も少なからずおり、改めてなぜ学ぶのか、学ぶ意義について考えてほしい、という想いから企画しました。当日、KYOPROスタッフは運営者であり、参加者でもあります。プログラムではファシリテーター役を務めながら参加者間の「潤滑油」となり、他の参加学生と一緒に、議論し、発表することを楽しんでいます。

小金井スタッフ 佐々木悠(生命科学部4年)

